

ねんかんだい16主日 きょうのふくいんしよ (マタイ13.24~30)

きょうかいがっこうのみなさま、おげんきですか。せんしゅうはおおあめがふって、たくさんのかたがたがいえをなくしたり、はたけがだめになったり、いえのなかもどろだらけで、かたづけにおわれているようです。わたしたちは、このかたがたのためになにかできることはありませんでしょうか。みんなでかんがえてみましょうね。

きょうのふくいんはせんしゅうのつづきで、また、たねまきのたとえはなしです。

イエスは、べつなはなしをもちだされた。「てんのくにはつぎのようにたとえられている。あるひとがよいたねをはたけにまいた。ひとびとがねむっているあいだに、てきがきて、むぎのなかにどくむぎをまいていった。めがでて、みのってみると、どくむぎもあらわれた。しもべたちがしゅじんのところにきていった。「だんなさま。はたけにはよいたねをおまきになったではありませんか。どこからどくむぎがはいったのでしょうか。」しゅじんは「てきのしわざだ」といった。そこで、しもべたちが「では、いってぬきあつめておきましょうか。」という、しゅじんはいった「いや、どくむぎをあつめるとき、むぎまでいっしょにぬくかもしれない。かりいれまで、りょうほうともそだつままにしておきなさい。かりいれるとき、まずどくむぎをあつめ、やくためにたばにし、むぎのほうはあつめてくらしにいれなさい」とかりとるものにいつけよう。」

わたしたちはみみにたくさんのことばがはいってきますね。しかしときどきそのことばがきこえてもころまでとどかない、あるいはきこえないようにすることもありますね。またとくべつにころできこえるこえに二つのこえがあることをしていますか。それは「よいことをするためにきこえるこえ」と「わるいことをするためにきこえるこえ」です。きょうのふくいんに「よいむぎ」と「どくむぎ」がかいてありますね、それは「よいこえ」と「わるいこえ」なんです。それはじぶんにどのこえがおおききこえるかによって、よいことをいっばいするか、またはわるいことをいっばいするかになってきます。

えをみながら どんなはなしだったか おかあさんとはなしましょう



よるになると

なんにちかたつてから...



リーダーがきいたはなしをみんなにきかせたい。

ひとりのおとこのこはかつおくんといって、いつものおともだちとあそんでいたとき、ひとりのおなじくみのおとこのこがきて、こえをかけられたそうです。「かつお、ほんやさんへいって、ほくがよみたいまんがをとってこい」といわれたそうです。そのとき、かつおくんはきゅうなことでしたから、びっくりして、そのこえが「わるいこえ」だとこころでかんじましたが、まよっていました。いかなかったらいじわるされる、いったらわるいことになる、どうしようと、かんがえているうちに、きょうのイエスさまのたとえはなしをおもいだしました。イエスさまのこえがかつおくんのころまでひびいたのですね。「よいこえ」「わるいこえ」がはっきりしていましたね。そのあと、かつおくんはどうしたとおもいますか。やっぱりイエスさまのこえをきくようにして、ほんやさんにいかなかった。「わるいこえにまけなかったことで、かつおくんはとてもよろこびをかんじました。」

かみさまはいつもわたしたちといっしょにいるので、こころのみみをすましてごらん、かならずかみさまのこえがきこえてくるよ。そしてきょうのふくいんのように「どくむぎが」じぶんのころにはいらないように、いのりましょうね。

もし、せいしよをもっていたら、きょうのマタイのふくいんしよのところには、ほかにもいろいろなたとえはなしもかいてあるので、よんでみてね。